

設置趣旨

MaaSにおけるデータ連携の重要性

・ 一人一人のトリップ単位の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ、検索・予約・決済等を一括で行うためには、各公共交通や移動サービスに関する様々なデータが共有・連携されることが不可欠

・ MaaSの提供によって蓄積される移動データは、地域の移動に係る精度の高いデータであり、交通事業者のサービスだけでなく、地域の交通計画やまちづくりの計画への活用が期待できる

我が国においてMaaSの普及が見込まれるなか、交通事業者等のMaaSに関連する事業者間におけるデータの取扱いや共有・連携について一定の方向性を示すことで、データ連携を安心して、かつ、円滑に行えるようにすることが必要

メンバー

【有識者】

越塚 登	東京大学大学院情報学環教授
伊藤 昌毅	東京大学生産技術研究所助教
落合 孝文	渥美坂井法律事務所パートナー弁護士
楠田 悦子	モビリティジャーナリスト
坂下 哲也	一般財団法人日本経済社会推進協会常務理事
日高 洋祐	株式会社MaaS Tech Japan代表取締役
吉田 樹	福島大学経済経営学類准教授

【オブザーバー】

< 鉄道 > JR東日本、東海、西日本、小田急、東急 < バス > 日本バス協会 < タクシー > 全国ハイヤー・タクシー連合会 < レンタカー > 全国レンタカー協会 < 旅客船 > 日本旅客船協会 < 航空 > ANA、JAL < 経路検索 > ヴァル研究所、駅探、ジョルダン、ナビタイムジャパン

議論する事項

データ連携の意義・目的
連携にあたって留意すべき
ルール

関連するプレイヤー
提供されるサービスの範囲
サービスを支える機能
必要となるデータの範囲
MaaSを支えるアセット

令和元年度内にガイドライン
を策定予定